

# 平成 28 年度第 2 回図書館協議会

平成 29 年 3 月 21 日 (火)  
午前 10 時～11 時 30 分

## 議事録

### 会場 門真市立図書館会議室

出席委員	国吉委員、仲谷委員、乾委員、木下委員、 下岡委員、東田委員、明浄委員、村上委員
事務局	柴田生涯学習部長、西中館長、竹本館長代理、 岡本分館長、土江
傍聴者	なし
案件	(1) 平成 28 年度事業について (2) 平成 29 年度事業計画及び予算について (3) その他

事務局 皆さん、おはようございます。図書館協議会の開催にあたりまして、一言挨拶申し上げます。委員各位におかれましてはご多忙のところ、また本日は雨の中、お足元の悪い中お集まりいただきありがとうございます。

はじめに、ご報告があります。資料の確認はあとでさせていただきますが、A3版の「門真市機構図」をお願いいたします。これにつきましては、平成29年4月1日から、現在、社会教育行政を所管している生涯学習部が学校教育部と統合され教育部となり、図書館はその教育部の所属となります。また、現在の生涯学習課の一部業務が市民生活部に移管され、スポーツ振興課と統合し、社会教育課となります。部が統合されることにより、図書館としましても、今まで以上に学校との連携がさらに深まるものと考えております。

さて、生涯学習複合施設の建設につきましては、諸事情により遅れておりますが、現時点では、来年度、担当課におきまして計画通りに進めていく予定となっております。

その生涯学習複合施設ですが、今年度は6月に福知山市（市民交流プラザふくちやま）の視察を行いました。公民館機能、図書館機能を併せ持つ複合施設で、保育機能も備えており、本市が建設する施設のイメージに近いものであり、大変参考になりました。

今年度後半に予定しておりました大阪府下他市の視察に関しましては、担当課との調整により、しばらく見送ることとなりました。

次年度につきましては、図書館開館40周年の記念すべき年であり、市民の読書活動の啓発と推進を図り、さらなる図書館の利用促進につなげるため、サービス内容、蔵書計画などを示した「図書館サービス計画」を29年度から30年度にかけて策定いたします。この計画につきましては、図書館協議会においても進捗状況などをご報告させていただく予定であり、委員の皆さまからもご意見をいただき、素案の作成にあたりたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上、挨拶とさせていただきます。

事務局 それでは、委員長、順次進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

委員長 おはようございます。今から始めさせていただきます。まず案件1「平成28年度事業について」、事務局より説明をいただきます。

事務局 平成28年度の事業報告について説明させていただきます。

資料1の「平成28年度門真市立図書館事業報告」をご覧ください。数字に関しては、2月下旬のものとなっております。

まず、1ページでございますが、図書館活動事業についてです。貸出については、全体をみますと昨年度に比べ減少傾向にあります。学級文庫配本事業の開始により団体貸出は増加しておりますので、児童書の貸出冊数は変化はあまりないと思われま。

登録者は、9年前の睡眠利用者が新規登録者分を上回ることとなり、減少しておりますが、実数に近い数字になってきていると考えられます。また、こちらに記載はしておりませんが、参考資料室のインターネット利用件数が平成27

年度は 968 件だったのに対し、今年度は現時点で 1,365 件となっており、リピーターを含め、滞在型の利用者が増加していることの一因であると思われます。予約については、昨年度 3 月のシステム更新に伴い、開架の本にもインターネットからの予約ができるようになったことで、利便性の向上から件数が増加していると思われます。また、4 月より行っている e-レファレンスは、今年度 7 件の依頼がありました。

次に、2 ページをご覧ください。図書館協議会の開催は、前回 7 月と今回の 3 月になります。

図書館フェアは、5 月末に開催いたしまして、リサイクル市、おはなし会ともに利用が多く、大変好評でした。

子どもの読書活動推進事業についてですが、図書館見学に多くのお子さんが来館していただきました。一日図書館員は、夏休みの行事として定着しております。職業体験学習につきましては、平成 28 年度は市内 6 中学校のうち、3 校の参加がございました。また、昨年度も行われた学校図書館司書提案の図書部による選書ツアーを行いました。

3 ページに記載しております、学校・園共催事業については、今年度、新しく行った取り組みとなっております。「図書館と学校との連携のための研修」では、司書教諭、学校図書館司書、市職員、ボランティアの方々の参加がありました。アンケートでは、他の学校の取り組みや廃棄方法を知りたいなど、次回を期待する要望もありましたので、継続での開催を検討していきたいと考えております。「学校図書館司書スペシャルイベント『えほんのひろば』」については、後ほど出てきます大阪府との共催事業である面展台製作教室に参加していただいた方が中心となって、ほぼ全員の市内学校図書館司書が協力しながら開催し、ビブリオバトルのデモンストレーションは、生徒たちに向けて取り入れる前に教員の研修として行ってほしいとの依頼があり、図書館と学校図書館司書がバトラーである発表者となって行いました。参加された先生方には大変好評でありました。「えほんのひろば」は、先ほどと同じく、大阪府との共催事業である読みメン研修を受けたボランティアの方々が企画し、保育園で開催いたしました。

他課等共催事業につきましては、五中校区の地域会議や、京阪古川橋駅周辺で行われる「ラブリーフェスタ」、古川橋駅構内の女性サポートステーションより読み聞かせの依頼があり、ボランティアの方々が出向いておはなし会を開催しております。

このように、読み聞かせの要望が増加し、ボランティアの活躍の場が増える状況にはなっておりますが、ボランティアの方の増加にはつながっておりません。今年度、新たなボランティア活動の希望者が数名来られたのですが、継続して活動できる方は 2 名となりました。また、今まで活躍していただいた方の中で、活動を控える方が数名おられるので、今後もボランティア活動の希望者が増えるよう、呼びかけを行ってまいります。

また、読み聞かせ・手作り等行事を例年通り実施いたしました。

4 ページの「おはなしのじかん」は、分館で大きな減少がみられるので、平成 29 年度からは、時間、場所の見直しを検討しております。

「出張おはなし会」では、保育園等にボランティアの方々が訪問し、おはなし会をしていただきました。今年度は、新たな保育園と小学校からの要望が増えたことにより、参加人数の増加につながっております。

次に、「第2次子ども読書活動推進計画」の策定に伴い、より一層の読書活動推進のため行われた「絵本作家谷口智則さんのライブペインティングと絵本の読み聞かせ」では、絵本作家の方が子どもの希望を聞き、大きな一つの絵を完成していくパフォーマンスアートを中心とした内容で進められ、子ども30人を含む110人の参加者からは、「絵本の世界がひろがった」「読み聞かせを作家さんの声で聞けて子どもも夢中になった」などの反響がありました。完成した作品は、1階、児童書コーナーの壁に展示してあります。のちほど、ぜひ、ご覧になってください。

展示会は、こちらに記載通り行いました。

「おはなし・ボランティア養成講座」では、先日、「ブックトークはじめてみませんか」が行われ、ボランティア、学校図書館司書などの参加がありました。今週末には、市民プラザ分館において、子どもに体験してもらうミニ実験と、ボランティア向けの科学読み物の講座の2部制の行事が行われます。

出前講演会は、例年通り門真市内公立の幼稚園2園で実施いたしました。

大阪府共催事業としましては、6月に面展台製作教室、10月の末から12月にかけては5回講座として「読みメンになろう！家族で本をたのしもう！研修」を行いました。こちらの事業については、大阪府が文部科学省委託事業「大阪府子ども読書活動推進ネットワークフォーラム事業」として3市と共催で行い、大阪府が2月に開催した「就学前フォーラム」においては門真市として報告をさせていただきました。

2月の休館日には、郷土資料の有効活用とスキルアップのため、研修として、図書館職員と学校図書館司書を対象に「門真市の歴史」の講座と歴史資料館の見学を行いました。

夏のビデオ上映大会は、子どもの作品と大人の作品の時間を分けて同じ日の7月に開催いたしました。

そして、生涯学習支援事業といたしまして、朗読ボランティア養成講座です。こちらは毎年実施しておりますが、朗読ボランティアの養成と同時に朗読技術の向上を図っております。以前は社会福祉協議会との共催でしたが、26年度からは、図書館単独での実施となっております。

対面朗読につきましては、朗読ボランティアの皆さまのご協力のもと実施いたしました。

「朗読で楽しむ文学の世界」と題する大人のための朗読会は、初夏と秋の行事として定着しております。

以上が平成28年度の事業報告でございます。よろしく申し上げます。

委員長 ありがとうございます。今説明がありました平成28年度の事業報告についてご質問等がありましたらお願いします。

- 委員 すみません。1 ページ目ですが、いちばん最後に、ここに書かれていないことで、e-レファレンス7件についてのお話がありました。e-レファレンスは平成28年度に始められたのですか。
- 事務局 はい。3月のシステム更新に伴いましてサービスの開始という形をとっております。
- 委員 分かりました。差し支えなければ、どのような内容でしたか。
- 事務局 所蔵調査が多くを占めておりまして、4件が所蔵調査です。その方たちに対しては、電話等でも受け付けておりますとご案内させてもらっています。市内中学校の学費に関する問い合わせもありました。その件に関しては図書館では資料を持っていない件でしたので学校教育課につなげるような回答といたしました。あと2件に関しましては、予約資料の受け取りといったところなので、それに関してもこちらのメールではないというご案内はさせていただきました。郷土資料等に直接つながるようなご質問は、今年度は見受けられませんでした。
- 委員 分かりました。ありがとうございます。もう一ついいですか。どのように広報をなさっているのでしょうか。
- 事務局 「広報かどま」で開始のご案内と、ホームページでのご案内、また、館内には「e-レファレンス始めました」というようなチラシは置いてあります。
- 委員 分かりました。ありがとうございます。
- 委員長 ほかにございませんか。  
次に進めさせていただきます。案件2に移ります。「平成29年度事業計画及び予算について」、事務局よりご説明をお願いします。
- 事務局 続きまして、1枚ものになりますが、資料2「平成29年度門真市立図書館事業計画及び予算」をご覧くださいませでしょうか。今年度予算、事業内訳と前年度予算と増減を記載しております。  
平成29年度の事業計画及び予算について説明いたします。  
図書館活動事業といたしまして、主なものとして図書費があります。図書費につきましては、調べ学習用図書費として30万円増額となっております、1,430万円となっております。近年、同じテーマで複数の学校からの依頼が重なることがあったため、予算を活用し、調べ学習の充実を図ります。  
そのほか、他市図書館視察に伴う予算として需用費等の中に、旅費、通行料の新規予算が含まれております。  
子どもの読書活動推進事業といたしまして、従来からの「おはなしの会」などがあります。次の、展示会、講座等開催事業といたしましては、幼稚園の出前講座、ボランティア養成講座、親子で楽しむ読み聞かせ講座を予定しています。

生涯学習支援事業といたしまして、「朗読ボランティア養成講座」、「朗読で楽しむ文学の世界」を実施いたします。

「学校等読書活動推進支援事業」は、委託業者により市内の学校等に図書館資料を学期はじめと学期終わりに配送・回収する事業であり、今年度から始まったものですが、継続して行うこととなりました。予算額は38万9千円となっております。

また、予算には計上されておりませんが、以前、委員よりご提案のありました国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の提供を準備が整い次第、開始いたします。こちらは、デジタル化した資料のうち、絶版などの理由で入手が困難なものをパソコンで閲覧や複写ができるようになるものとなっております。先がけて、「歴史的音源」については、サービスを開始している状況です。今後、市民の方に活用していただけるよう、広報等を行ってまいります。

以上、簡単ではございますが、平成29年度の予算につきまして報告を終わらせていただきます。

続きまして、平成29年度の行事予定を、土江から報告させていただきます。

事務局 来年度行事計画をご報告いたします。

平成29年度は、図書館開館40周年記念の年にあたり、新たな事業に取り組むことを予定しております。開催時期を検討中のため記載しておりませんが、本の表紙を面展台上に数百冊並べる「えほんのひろば」の開催や、一般利用者向けに「書庫開放」などを行います。秋ごろには、音楽会の開催も予定しております。

では、資料3の「平成29年度図書館行事（案）」をご覧ください。確定しておりますのは6月までの部分となっております。

4月の子ども読書週間には、「絵本で楽しむかがく」と「図書館が開館した1977年に生まれたこどもの本」のテーマのもと、子どもの本展示会をします。本館では、4月18日～4月30日まで、分館では5月2日から5月10日まで行い、本館では、4月23日に毎年恒例の絵本を中心としたおはなし会「絵本の好きな子よっといでパート16」を開催します。

また、6月と秋ごろには、本館で一般向け行事として「朗読で楽しむ文学の世界」を開催します。

例年行っている図書館フェアについては、週末の5月27日と28日に開催の予定です。

学校関連では、市内幼稚園に出前講演会を行い、要望に応じまして、随時、出張読み聞かせなど学校訪問を行ってまいります。また、夏休み、冬休み、春休みの学校休業時には絵本の読み聞かせを中心としたおはなし会、手づくり遊びなどを行います。これらは、ボランティアの方々との協働による行事です。

秋以降には、乳幼児と保護者向けに絵本を通じた親子のふれあいを目的とした講座や、ボランティアの方のための講習会を予定しております。

定例の行事としましては、下枠内に記載しておりますように、本館・分館ともに、水曜日・土曜日の読み聞かせ、乳幼児向けには、月に1回、「赤ちゃんふれ

あい絵本タイム」と、ブックスタート会場での読み聞かせを行っております。なお、例年行われておりました、おはなし会の「絵本の広場」は、今年度の研修で学んだ「えほんのひろば」が、数百冊の絵本や写真集の表紙を面展台上に並べて子どもが自由に読める場であると普及されていることから、次年度からは、「おはなしの広場」と名称を変更することとさせていただきます。以上でございます。

委員長 ありがとうございます。今説明がありましたが、二つに区切りましてご質問等を伺いたいと思います。まず、「平成 29 年度事業計画及び予算について」ということでご質問がありましたらお願いします。

委員 平成 28 年度からスタートなされた市内の学校等への図書館資料の配送開始ということで、こちらは前年度と比べまして予算が増えておりますが、この事業自体について市民あるいは学校からの意向とか、手応えといいますか、それを反映して予算が増えたのでしょうか。それとも予定通りということなのでしょうか。

事務局 これに関しましては、平成 28 年度につきましては、1 回あたり 4 万円ということでしたが平成 29 年度は予算要求にあたりまして見積もりを取らせていただいたところ、1 回あたり 6 万円ということに、2 万円ほど値上がりしておりますので、12 万円増となっております。

委員 受託事業者さんへの委託料ということですか。

事務局 そうです。

委員 ありがとうございます。

委員長 ほかにどうでしょうか。よろしいですか。  
続きまして「平成 29 年度図書館行事（案）について」ご質問がありましたらお願いします。

委員 もとに戻ってもいいですか。

委員長 予算の所ですね。

委員 はい。図書館のアルバイトだったり非常勤の方を雇用されていると思いますが、最近世間的にはそういった人件費、お給料がアップしてきて、それもあってなかなか人が集まりにくいというようなことも聞いたりしますが、門真市の場合には順調に、そういう面では人手不足ということはなく集まっているのでしょうかということをお聞きしたいのと、なぜ聞くかということ、時給をアップしなくても大丈夫なんですかということで、お尋ねをいたしました。

事務局 非常勤嘱託職員の報酬につきましては、毎年アップしていく制度となっております。

委員 そうですか。

事務局 ずっと同じ金額ではないので、ということです。非常勤に関しましては、図書館のホームページに、募集につきまして登録を随時受けておりますということで、アップしておりますので、お問い合わせや、実際に登録に来られる方もいらっしゃると思います。

委員 では、不足することなく集まっているのですね。

事務局 はい、そうです。

委員 分かりました。ありがとうございます。よその図書館などでは不足してなかなか集まらないという声も聞いたりするので伺いました。

委員長 ほかにどうでしょうか。では三つ目の案件ということで「その他」、事務局よりお願いします。

事務局 最近の電子書籍の現状と図書館につきまして、村上委員よりおはなしをしていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

委員 図書館年報に関して、今日おはなしはあるのでしょうか。

事務局 前年度の数字のご報告となっておりますが、特に内容等に関してはお伝えすることはありませんでしたが、見ていただいて、経年の経過と行事報告をしております、特にご報告という形は取っていません。

委員 分かりました。では失礼いたします。10分程度ということでレジュメも何も配布せず、こちらで見ていただきながらということになると思います。2年前にも同じテーマでお話しさせていただきました、それほど内容は変わっておりませんので、2回目の方は申し訳ありません。もう一度思い出すということでお聞きいただければ幸いです。

#### 講演「最近の電子書籍の現状と図書館について」

委員長 村上委員ありがとうございました。今おはなしがありました「最近の電子書籍の現状と図書館について」ということで、ご質問がありましたらお願いします。

委員 絵本を読む機会が多いのですが、海外では絵本もやはりもうかなりデジタル化されているのでしょうか。

委員 はい。デジタル化してしまして、海外の、例えばアメリカの公共図書館のサイトなどを見にいけますと、子ども向けの電子書籍のページもあります。

委員 読み聞かせに関しては、タブレットを使ってやっておられる方も海外にはいらっしゃるということですか。

委員 はい。私もそこまでは詳しくありません。

委員 最近若いお母さんなどは、赤ちゃんにもタブレットを持たせて動画などを見せていることが多いので。

委員 そうですね。

委員 動画を見せるのだったら、絵本などもどうかなと、すごく思いました。

委員 ええ。ただ日本ではやはり紙の本でというのがありますし、どちらがいいかというのは、なかなか。

委員 そうですね。お出かけするときでも、小型の絵本を持っている子よりも、携帯電話を持たせてとか、タブレットを持っている赤ちゃんをよく見かけます。

委員 赤ちゃんですか。

委員 赤ちゃんも見ているんですよ。

委員 ああ、そうですか。

委員 0歳児でも、けっこう、見ていたり、タブレットを、大きい子は持てますので、座れる子は持って見ている現状を見ているので、どうなのかなあと。

委員 そのあたりは、お子さんとの触れ合いなどいろいろな問題はあるのかなと思います。

委員 ありがとうございます。

委員長 ほかに、どうでしょうか。

委員 電車の中でも、いろいろ、このごろはタブレットを持っていますが、いまのところ電車の中で見るのはそれで本を読んでいるというよりは、やはり、コミックスで。

委員 だいたいマンガばかりですね。

- 委員 あとは、動画ですとか、ゲームですね。このごろ大学に入ってくる学生も「歴史に興味があるんです」って。「司馬遼太郎？」とか言うと、全然違って、「ゲームです」っていう。
- 委員 いまの関連で、千代田区立千代田図書館が、館内でタブレットを貸出されていますね。
- 委員 そうですね。
- 委員 千代田区の図書館の中ででしたら、よく新聞にも載っていましたが、子どもを連れて来られたお母さんが、館内のタブレットで。あれは館内で貸出でしょうか。
- 委員 はい。貸出もできるように。
- 委員 あのときの契約というのは、結構当初からだと思いますが、あの方式というのはそれほどほかの館では。
- 委員 TRCではなく、ほかの、楽天系のところだったかなと思うのですが、kobo 端末を貸し出すというような形で、それほど数はなかったと思います。
- 委員 そうですよ。早期からそういうことで、図書館でも専用のタブレットで読み聞かせをやっているという風景を見ます。
- 委員 先ほど紹介していただいた『3匹のこぶた』のようなものでも、子どもでも、もし読み聞かせてもらえるのなら、お母さんは利用されるだろうなと思ったりします。
- 委員 そうですね。文字と一緒に画像が出たり、動画が出たりというのは、電子書籍でしかできないところなので、そういったものに関してはニーズはあるのかなあとと思います。  
学校もデジタル教科書が検討されているというのもありますから、これから学校現場にも入ってくるでしょうし、そうすると、教科書だけがデジタル化されても、意味がないとは言いませんが、もっといろいろな、学校図書館に置いてある図書もそうした端末と一緒に利用できるようにするためにはどうしたらいいのかということも含めて、考えていかないといけない時代なのかなと思います。
- 委員長 ほかにどうでしょうか。よろしいですか。では、次にいきます。「その他について」、事務局より説明をお願いします。

事務局 事務局より、2点報告をさせていただきます。まず、学校連携についてです。前回の図書館協議会において、学校図書館司書の配置が市内20校中12校に6名であることをお伝えしておりましたが、平成29年度は全校配置となることが決まりました。小学校14校、中学校6校の合わせて20校に対し、10名の配置となります。現在、学校図書館司書は研修への参加や、夏のイベントの開催など、活動も活発で、熱心な司書の方々が協力し合いながら活躍をしておられます。平成29年度からは、図書館を会場として、学校図書館司書の連絡会を2カ月に1回行うこととし、選書や廃棄方法、調べ学習についての研修を行っていくことや、経験者から新しく採用された方への情報交換の場となるようにと考えております。今後はさらに学校と相互連携し、子ども読書活動の推進に努めてまいります。

2点目は、平成28年4月に、障害者差別解消法が施行されたことにより、合理的配慮の提供として、6月、館内にコミュニケーションの障壁を減らすためのポスターを掲示しました。また、視覚障がい者や集中して読みたい人の補助具となるリーディングトラッカーを7月に導入いたしました。現物をお持ちしなかったのですが、リーディングトラッカーは、カラーフィルムのようなものが本の1行ぶんだけ色が付くような状態になっていまして、その前後が黒く文字が隠される状態になっておりますので、視覚障がいや学習障がいの方が、集中して本を読みやすいように1行1行スポットを当てるといようなものになっております。報告は以上となります。

委員長 ありがとうございます。この説明に関しまして、何かご質問等ありましたらお願いします。

委員 学校司書が20校で10名ということですが、今後さらに増やしていかれる予定はありますか。2校掛け持ちですよね。

事務局 そうです。

事務局 学校教育課の採用となっております、現在のところは20校配置10名ということだけお聞きしております。

委員 ぜひ、やはり、全校に1名ずつというのを希望しておきたいと思います。

委員長 ほかにどうでしょうか。よろしいですか。  
ほかにないようですので、以上をもちまして本日の議案について終了し、平成28年度第2回門真市立図書館協議会を閉会とします。本日はどうもありがとうございました。

事務局 ありがとうございます。閉会にあたりまして生涯学習部部長よりご挨拶を申し上げます。

事務局 今年度も委員の皆さまにはいろいろご意見、ご提案などをちょうだいしまして、

どうもありがとうございました。図書館は一人一人の学びを支援する施設ですが、やはり受け手というか利用者あつての施設ですので、サービスの質や幅や取り組むべき課題は、ありがたいことにいっぱいございまして、利用していただく方、図書館のファンづくりということを念頭におきまして、先ほど館長が申しましたが、「図書館サービス計画」というのを2カ年かけて、次年度からつくることとなります。

ただ、公務員は皆、図書館だけではなくPRはとても苦手な分野ですので、広報やホームページ以外にもサービス計画をつくっても、実際にそのサービスを知っていただかないと効果的にはつながらないと思いますので、策定のときにまたご意見をいただきますが、そのような情報発信、こういう方法があつたらもっと皆さんに知っていただけるのではないかというような意見も教えていただきながらつくっていきたいと思いますので、引き続きよろしく願い申し上げまして、まとまりがありませんが、本年度のお礼とさせていただきます。どうもありがとうございました。